

2020 年 5 月 14 日

博報堂 Pechat 開発チーム・博報堂こそだて家族研究所・LITALICO 発達ナビ
「ASD と子育て実態調査」結果発表
第三弾「広げよう！理解・支援の輪！」編
—ASD の子育てへの周囲の理解・支援状況とその影響—

株式会社博報堂の次世代育児アイテム Pechat 開発チームと博報堂こそだて家族研究所は、学習塾や障害児支援事業を行う株式会社 LITALICO と共同で、ASD（Autism Spectrum Disorder=自閉症スペクトラム）※1の診断や傾向のある子どもを育てる家庭の実態や周囲の支援のあり方を把握するための「ASD と子育て実態調査」を実施しました。

今回は、第三弾の調査結果として「広げよう！理解・支援の輪！」編をご報告いたします。調査結果からは、ASD の子の子育てにおいて周囲の理解や支援が充分に得られていない現状に加えて、理解や支援が得られていると感じている保護者ほど、ASD の子どもの発達特性をこれからの成長過程で「強みになる」とポジティブに捉えている傾向があることが明らかになりました。

なお、ASD の実態や子育てのヒントを研究・発表する WEB サイト「教えて！はったつ博士」（<http://h-hakase.jp/>、3 者共同で運営）でも調査結果の詳細をご紹介しますので、併せてご活用ください。

※1）ASD（自閉症スペクトラム）：「スペクトラム」と言われる通り、虹の帯のように境目なく連続しており、症状や特性は一人ひとり多様です。また、生活における困難さは個人の特性と周囲の人的・物的環境との相互作用によっておこるため「どこからどこまでが障害」と機械的に線引きできるものではありません。最近では、ニューロダイバーシティ（neurodiversity：自閉症スペクトラムなどの発達障害の特性は障害ではなく「ヒトの脳の神経伝達経路の多様性」とする考え方）も広がっています。

※2）「典型発達の子」：自閉症スペクトラムやその他の発達障害の疑い圏にいない子。NT（neurotypical：神経学的典型）という分類が由来。

〈調査結果のポイント〉

- 「ASD と診断された子」の保護者が抱いている子育てへの意識は、「正解がわからない」（69.0%）、「不安がある」（68.1%）、「大変」（53.9%）が TOP3 に。この 3 項目は、「典型発達の子※2」の保護者の回答結果と比較しても特に大きな差が見られる。
- 「ASD と診断された子」の保護者の 6 割以上が、「子育てをする上で困っていることがある」と回答。
- 「ASD と診断された子」の保護者の過半数が、ASD の子どもの子育てをする上で、周囲の理解や支援が「とても必要」と回答。一方で、実際の子育てにおいて周囲の理解や支援を得られていると思うかを聴取したところ、「とてもそう思う」と回答した人は 17.4%と低い割合にとどまる。
- 「ASD と診断された子」の保護者が、子育て支援を求める対象として「国・自治体などの公共機関・相談窓口」（51.7%）が 1 位となったが、実際に支援を得られていると答えた保護者は 35.4%にとどまっている。
- 「ASD と診断された子」の保護者が必要と思う子育て支援の内容は、「ソーシャルスキル（友達とのかかわり方、社会性）を伸ばす支援」（58.2%）が最も高い結果に。子育てに必要なツールとしては「コミュニケーションを活発にするための教育ツール」（60.7%）が 1 位だった。
- 「ASD と診断された子」の保護者のうち、「子育てにおいて周囲の理解や支援が得られているととても思っている」と答えた人の約 8 割が、「子どもの ASD 特性を強みに思う」と回答。「ASD と診断された子」の保護者全体よりも 15.9pt 高い結果に。

〈参考データ〉

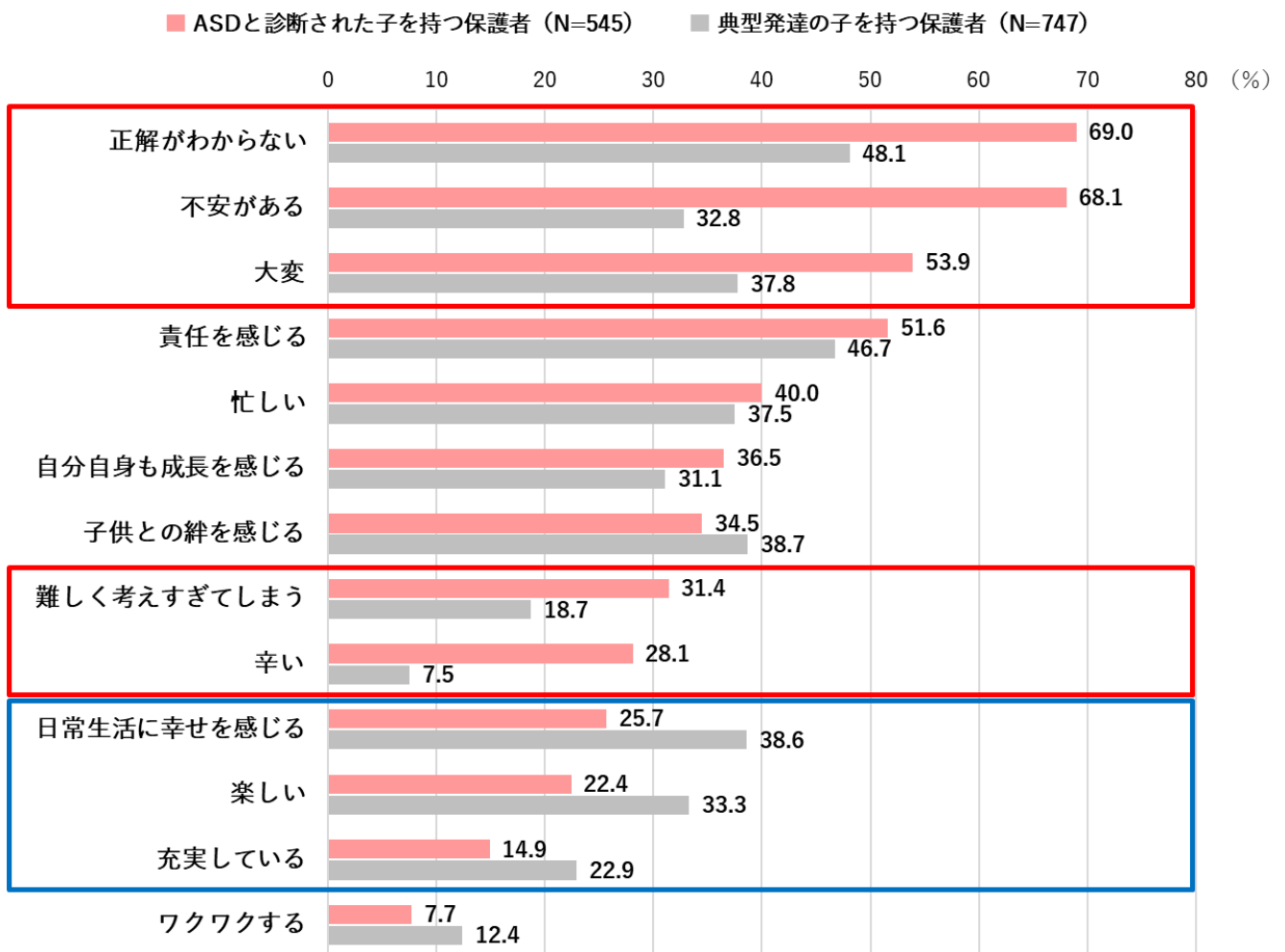
【ASD の子の保護者が感じている子育てへの意識①】

■「ASD と診断された子」の保護者が子育てに感じている意識として、「正解がわからない」(69.0%)、「不安がある」(68.1%)、「大変」(53.9%) など、比較的ネガティブな内容が TOP3 を占めました。上記の 3 項目は、「典型発達の子」の保護者と比較しても、特に差が開いています。

そのほかにも、「難しく考えすぎてしまう」(31.4%)、「辛い」(28.1%) といった項目でも大きな差が見られました。

■一方で、「日常生活に幸せを感じる」(25.7%、差分▲12.9pt)、「楽しい」(22.4%、▲10.9pt)、「充実している」(14.9%、▲8.0pt) というポジティブな項目においては、「典型発達の子」の保護者が「ASD と診断された子」の保護者を大きく上回りました。

Q. 現在、あなたが行っている子育てについて、どのようにお感じになっていますか。以下の中からあてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)



「ASDと診断された子」の保護者の回答割合が、
「典型発達の子」の保護者より
10pt以上高い項目

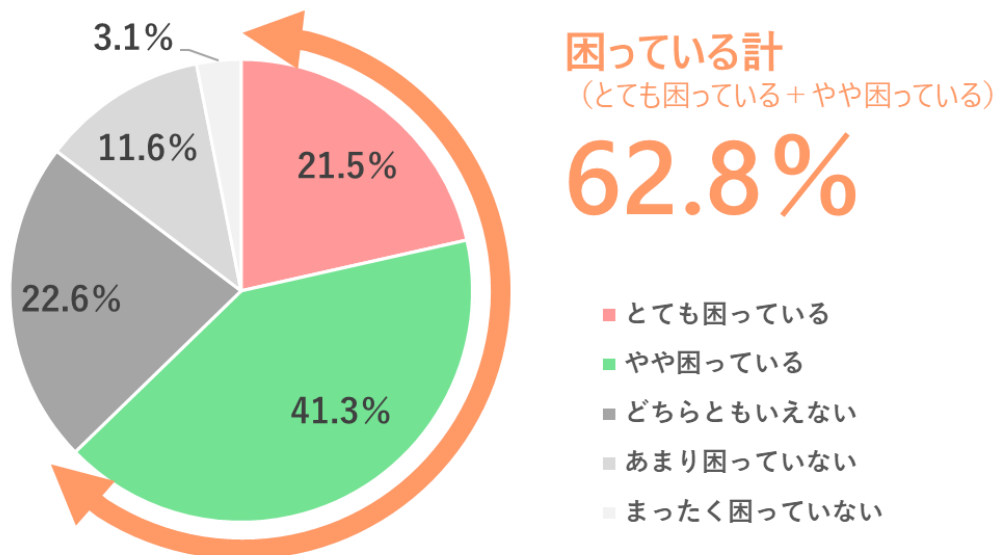
「典型発達の子」の保護者の回答割合が、
「ASDと診断された子」の保護者より
10pt以上高い項目

※ASD と診断された子を持つ保護者の回答割合降順にソート

【ASD の子の子育てに関してどの程度困っているか】

■「ASD と診断された子」の保護者に、子育てに関してどのくらい困っているかを5段階で選んでもらったところ、「とても困っている」(21.5%)「やや困っている」(41.3%)と答えた人は合計62.8%に上りました。

Q. お子様の子育てをする上で、ASD の特性に関するお困りごとは、どの程度ございますか。



※ASD と診断された子を持つ保護者ベース (N=545)

【ASD の子の子育てで、周囲に理解してもらいたいと思うこと】(自由回答集)

■「ASD と診断された子」の子育てをする上で、周囲に理解してもらいたいと思うことを保護者に尋ねたところ、課題が9つに分類できることがわかりました。

Q. ASD のお子様の子育てをする上で「周囲に理解してもらいたい」と思うことはありますか。ご自由にご記入下さい。

一見、他の子どもと変わらないため、発達特性が理解されにくい。

見た目は普通、空気も読める、一般には真面目に見られる。その為、周りからは親が過保護で心配症と言われていること。見た目が普通でも、アスペルガーで毎日ストレスがMAXなことなど理解してもらいたい。
(12歳の女の子の保護者)

話はするし、難しい言葉も使えるので一見、何の問題もなくコミュニケーションを取れるように思われがちだが、とっさの一言が言えなかったり困ったことが言えなかったりするので理解して欲しい。
(11歳の男の子の保護者)

行儀が悪く見られたり、保護者に原因があると思われる。

低緊張で身体がふにゃふにゃしているので姿勢が保てずお行儀悪くみられる。知的障害と併発で協調運動が苦手な不器用。日常普通にできることができない(お箸、ファスナーしめ、ちょうちょ結びなど)。
(8歳の女の子の保護者)

周囲に気味悪がられてしまう。私が叱ってばかりでうるさいと児相に通報された事もある。周囲からしたら迷惑でしかないだろうが、どうしようもない。
(11歳の男の子の保護者)

はたから見たら、性格と嫌の悪い子供だと思われると思うが、そうではなく、それは先天的で治らない、矯正できない、ということを理解してほしい。
(19歳の男の子の保護者)

近親者からも理解が得られず、ストレスを抱えてしまう。

夫はよく理解しているが、祖父母には全く理解してもらえず、息子特有の特徴に合わせた私の対応を批判ばかりし、説明してもわかってもらえずストレスをかかえている。
(4歳の男の子の保護者)

夫が子どもの障害の診断名を知らない。障害に対する理解がなく、調べようもしない。医療機関や療育機関とのやり取りは母親である自分のみが行っている。自分の両親(子どもにとっての祖父母)に障害を説明しても、昔はそんなもの(発達障害)はなかったと言われ、理解どころか説明すら受け入れてもらえない。
(5歳の男の子の保護者)

支援学校に通い、病院にも通院しているので日常の支援は得られているが、夫や義父母、実家の親からは理解されていないと感じる。軽度であるため、「やればできる」「勉強させないほうがダメ」など、育て方が悪いように言われてしまう。
(15歳の男の子の保護者)

専門家ではない人からのアドバイスにうんざり

うちの子は中度~重度の自閉症、知的障害なので内容を伴った会話ができない。それに対して「こうすればいいんじゃない?」とアドバイスされる事がある。口頭でアドバイスされるようなことはとくに試しているので、精神的に余裕が無いときにはうんざりする。
(6歳の男の子の保護者)

発達障害だというと「違うんじゃない?」と言ってくる人がある。こちらは専門医に診断してもらっている。一部の子供の様子だけで日常生活を知らないのに簡単に言わないでほしい。
(13歳の男の子の保護者)

発達障害をひとくくりに捉えられてしまい、個々の特性を見てもらえない。

デイサービスを利用したりしているが、ベテランのスタッフさんでも、スペクトラムだからと一括で理解したつもりでいるのがつらい。特徴は似てるところはあるかもしれないが、度合いとか特性はそれぞれに違うのでちゃんと個人でみてもらいたい。
(10歳の男の子の保護者)

発達障害は全部1つに考えてる人が多くそれぞれの特性を理解せず、腫れ物に触るような感じで関わらないようにする人が多い。
(7歳の男の子の保護者)

グレーゾーンの子どもには、ASDの診断がないための特有の問題がある。

療育手帳が取得できないレベルの発達障害の子どもは、進学先・就職先・福祉サービスの幅が狭い。一見普通の子どもに見えるので、手帳がないと健常者の底辺、というポジションから抜け出せない。それが子どもの自己肯定感の妨げになっていると思う。
(13歳の男の子の保護者)

発達障害でもグレーゾーンにいる親が一番大変だと理解してもらいたい。グレーであるが故に福祉サービスも制限があったり受けられなかったり現状は厳しい。かといって普通に働けるかというコミュニケーションが苦手なだけに支援無しで社会に出ること自体が前途多難。
(18歳の男の子の保護者)

本人の困りごとをケアするような周囲の対応をお願いしたい。

ことばの裏の意味を読み取ることが苦手なので具体的にはっきりと話して伝えてほしい。自分から発信することや新しい事、新しい環境が苦手なので無理じいをするのではなく根気よく付き合ってほしい。
(6歳の男の子の保護者)

自分の目の前から何も言わずに走っていなくなってしまうのを異常に嫌がり、追いかけて問い詰めたり、押したり、叩いてしまったりする。周りの友だちは、なるべく走らずに登下校したり、「○○だから走って帰るね、バイバイ」などと言ってもらえるとうれしい。
(10歳の男の子の保護者)

口頭で一度にたくさん指導をすると、パニックになることがある(見た目にはパニックになっているとは気づかれないかもしれないが、明らかに焦っている様子)。本人は、コーチに一度にいうのではなくゆっくりひとつずつ教えてほしいとお願していた。
(11歳の男の子の保護者)

本人から周囲に助けを求めるのが難しいので、適度に声掛けしてほしい。

コミュニケーションがうまくできないが、見た目は普通のため、また、本人も援助を求められないため、様々なことからおくれをとり、本人の自己肯定感が下がる。
(17歳の男の子の保護者)

助けを求めるのが遅いから、適度に声掛けをして欲しい。
(15歳の男の子の保護者)

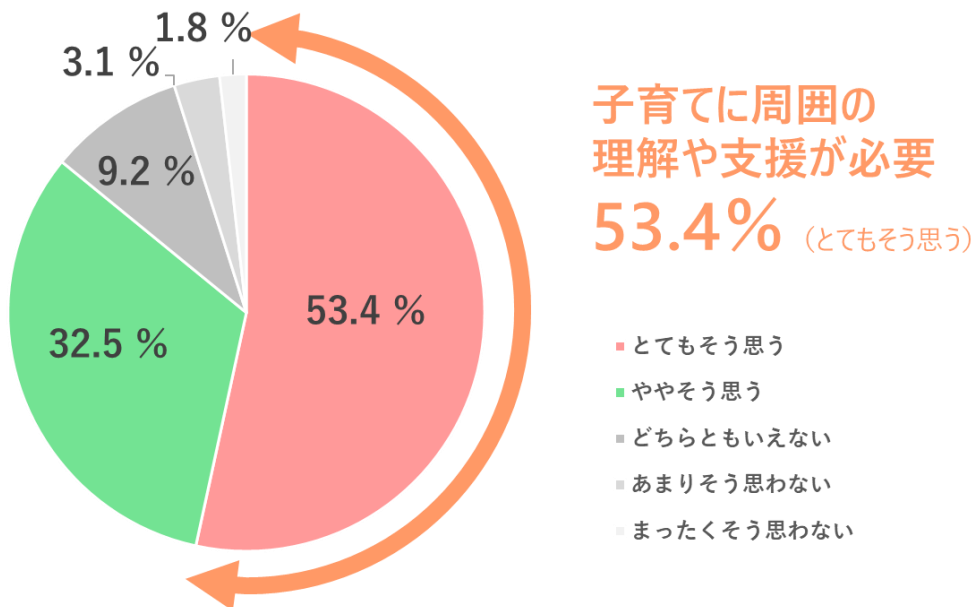
一方で「普通に接してほしい」という声も。

障害児を受け入れている統合保育の園に通わせている。周りの保護者は優しく理解があるが、子どもの事を話す時は「腫れ物に触るような気遣い」を感じ、自然と距離を取ってしまう。私は健常児も障害児も、それぞれの子育てに大変さがあると思っているので、普通に話してくれた方が気楽で良い。
(6歳の男の子の保護者)

【ASD の子の子育てに関する周囲の理解・支援の必要性】

■子育てをする上での周囲の理解や支援の必要性について「とてもそう思う」と回答した「ASD と診断された子」の保護者は 53.4%と過半数を超え、「ややそう思う」と回答した人を合わせると 8 割を超える保護者がサポートを必要としていることが明らかになりました。

Q. ASD のお子様の子育てをする上で、周囲の理解や支援が必要だと思いますか。

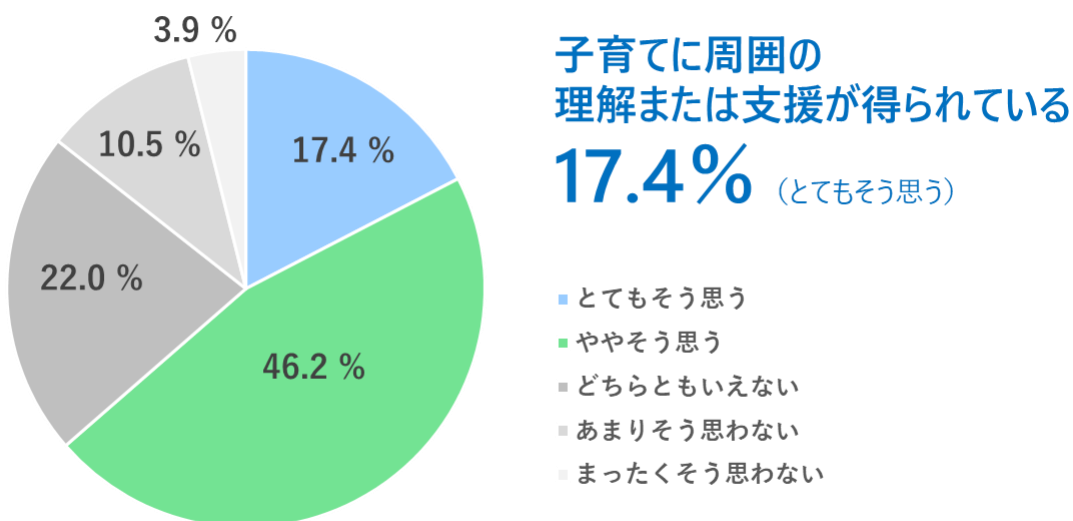


※ASD と診断された子を持つ保護者ベース (N=545)

【ASD の子の子育てに関する周囲の理解・支援】

■「ASD と診断された子」の保護者が、子育てについて周囲の理解または支援が得られていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(「とてもそう思う」+「ややそう思う」)と回答した保護者は 63.6%と過半数を超えましたが、「とてもそう思う」と回答した人は 17.4%と低い割合にとどまっています。

Q. ASD のお子様の子育てをする上で、周囲の理解または支援が得られていると思いますか。

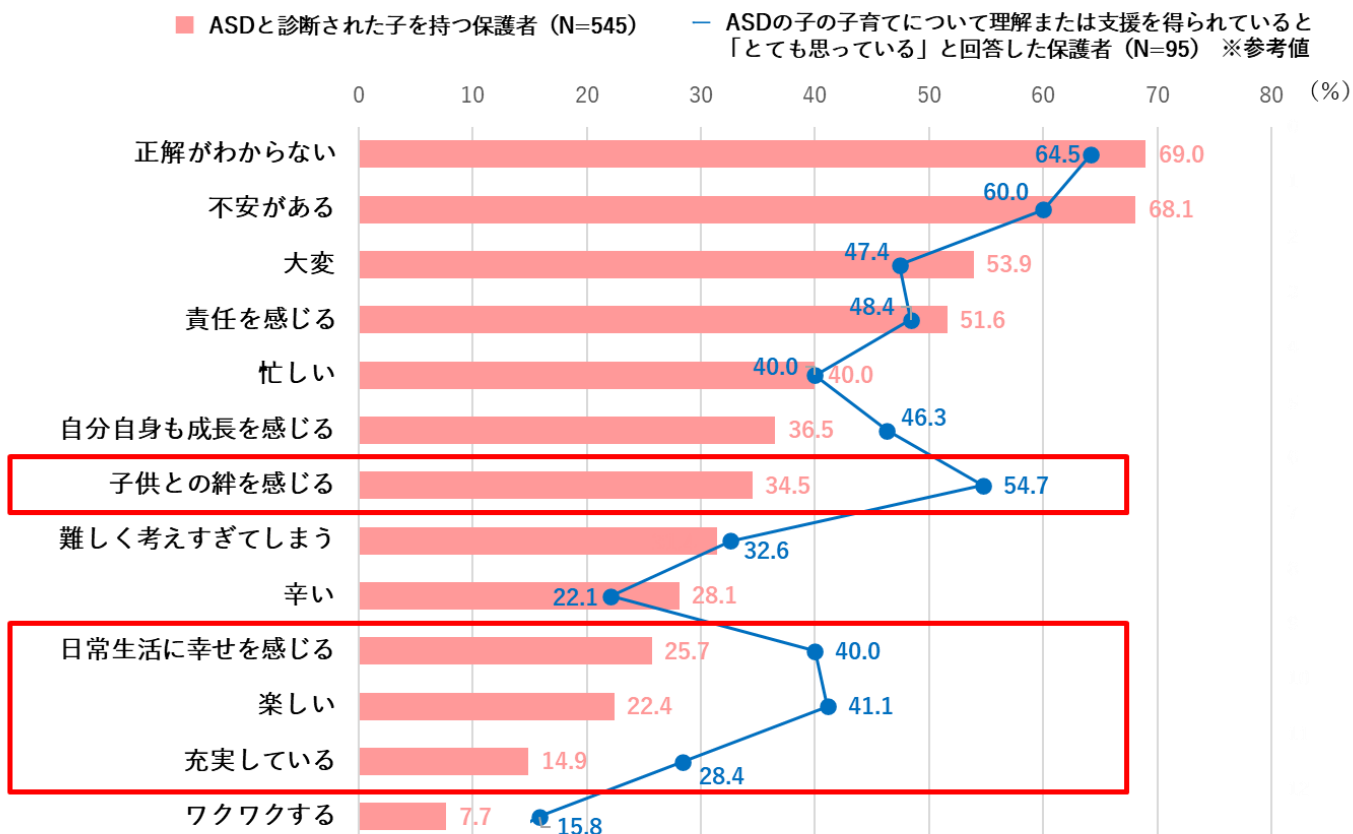


※ASD と診断された子を持つ保護者ベース (N=545)

【ASD の子の保護者が抱えている子育てへの意識②】

■「ASD と診断された子」を持つ保護者全体と、そのうち「ASD の子の子育てにおいて、周囲の理解や支援を得られているととても思っている」と回答した保護者の子育てへの意識を比べたところ、後者のほうが「子供との絆を感じる」(54.7%、「ASD と診断された子」全体との差分▲20.2pt)、「日常生活に幸せを感じる」(40.0%、▲14.3pt)、「楽しい」(41.1%、▲18.7pt)、「充実している」(28.5%、▲13.5pt)といった項目が特に高く、子育てをポジティブに捉えていることがわかりました。

Q. 現在、あなたが行っている子育てについて、どのようにお感じになっていますか。以下の中からあてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)



「ASDと診断された子を持つ保護者」と比較して、「ASDの子の子育てについて理解または支援を得られていると『とても思っている』と回答した保護者」の回答割合が10pt以上高い項目

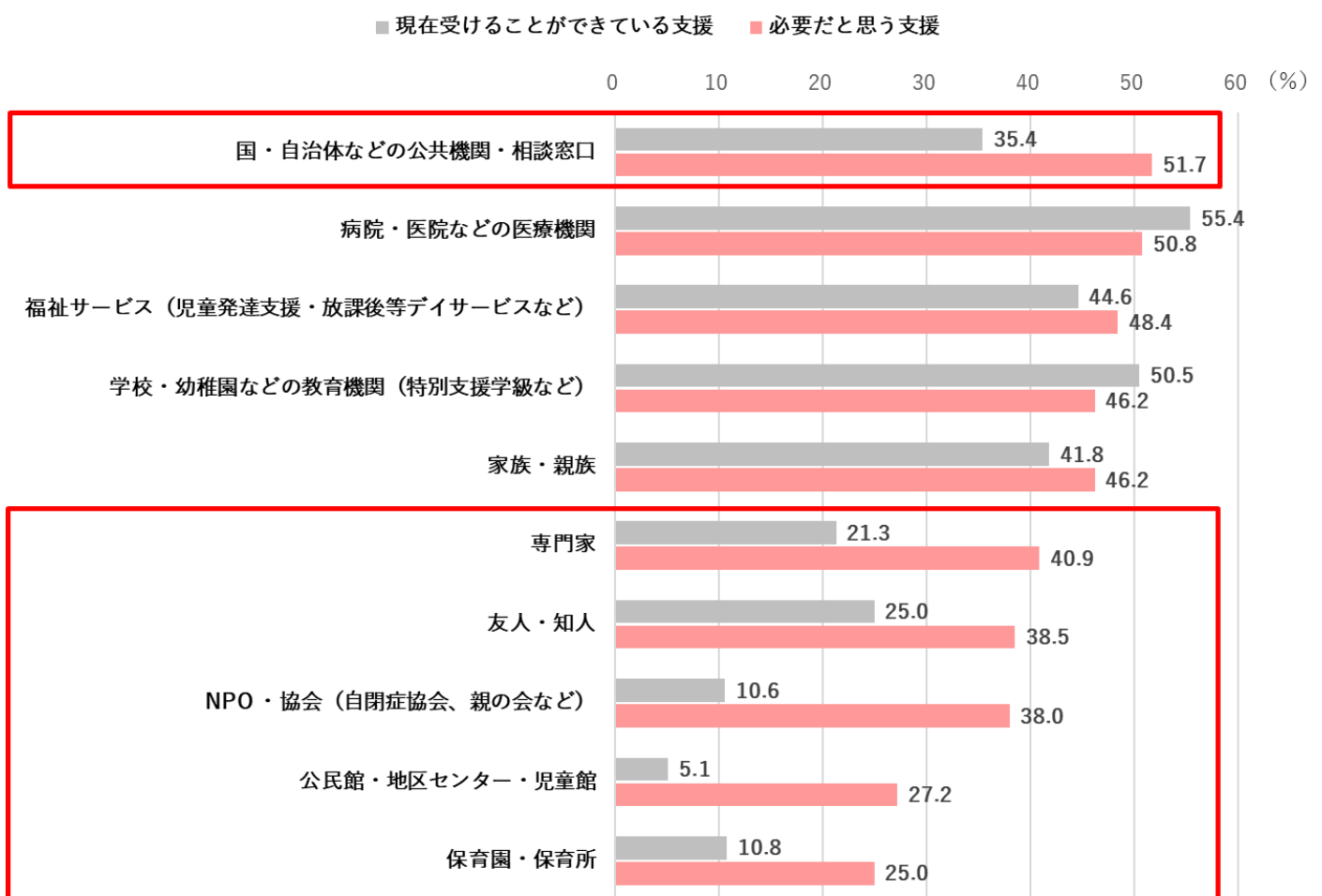
※ASD と診断された子を持つ保護者回答割合降順にソート

【ASD の子の保護者が子育て支援を求める相手】

■「ASD と診断された子」の保護者が、現在支援を受けられていると感じる機関や人として、「病院・医院などの医療機関」（55.4%）、「学校・幼稚園などの教育機関」（50.5%）、「福祉サービス」（44.6%）、「家族・親族」（41.8%）が上位に挙がりました。

■一方で、保護者が必要だと思うものの支援を受けられていないと感じている機関や人（「必要だと思う支援」と「現在受けることができていない支援」の差が大きい項目）は、「国・自治体などの公共機関・相談窓口」（差分▲16.3pt）、「専門家」（▲19.6pt）、「友人・知人」（▲13.5pt）、「NPO・協会」（▲27.4pt）、「公民館・地区センター・児童館」（▲22.1pt）、「保育園・保育所」（▲14.2pt）で、いずれも 10pt 以上の開きが見られます。

Q. ASD のお子様を子育てする上で、どのような機関や人からの支援が必要だと思いますか。また、現在受けることができていない支援はありますか。（いくつでも）



「現在受けることができていない支援」と比較して、
「必要だと思う支援」の回答割合が
10pt以上高い項目

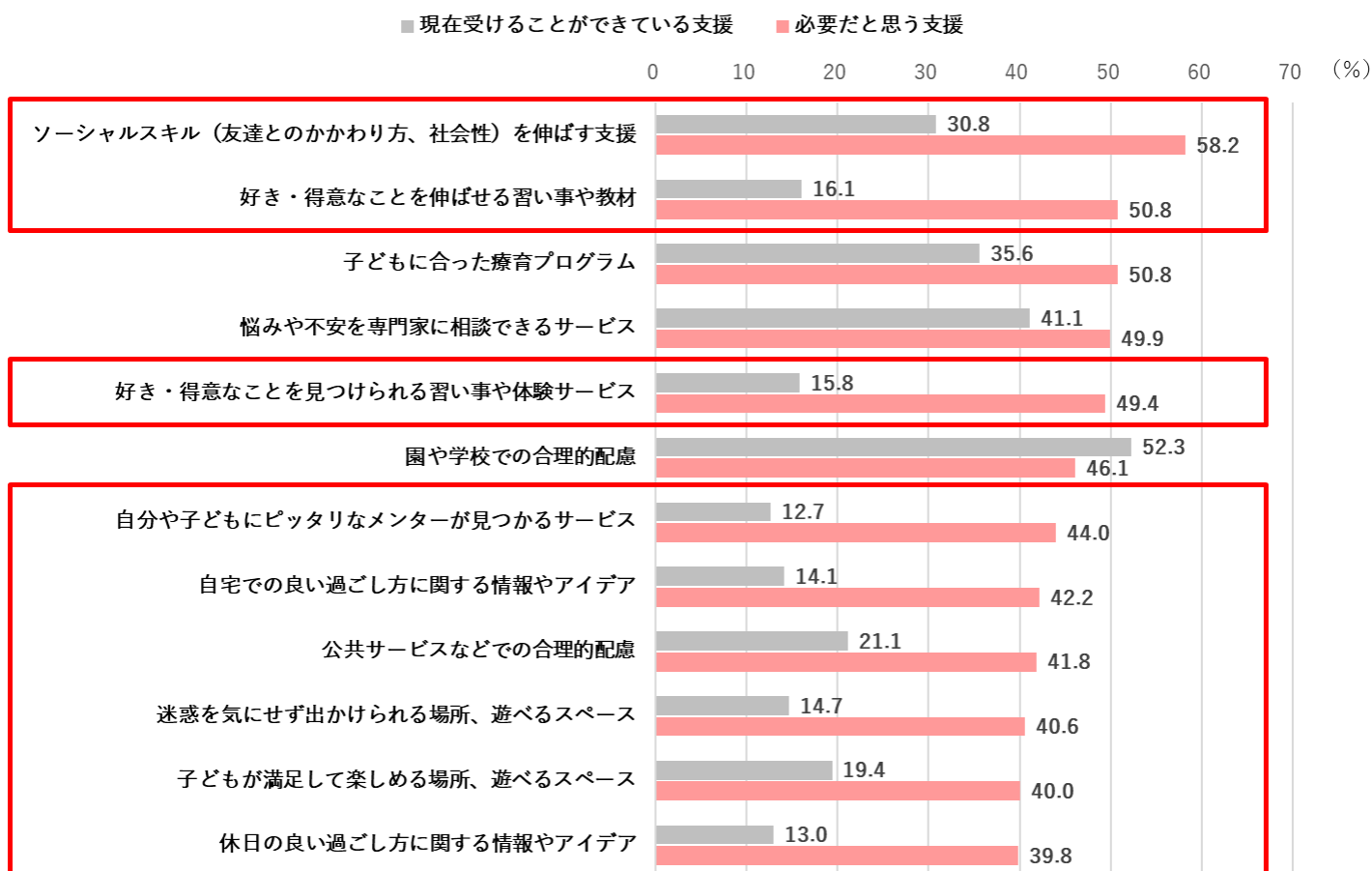
※ASD と診断された子を持つ保護者ベース（N=545）

※「必要だと思う支援」回答割合降順にソート

【ASD の子の保護者が求める子育て支援の内容】

■「ASD と診断された子」の保護者に必要な支援内容を聞いたところ、「必要だと思う支援」と「現在受けることができる支援」の差が特に大きかった項目は、「好き・得意なことを伸ばせる習い事や教材」（差分▲34.7pt）、「好き・得意なことを見つけれられる習い事や体験サービス」（▲33.6pt）、「自分や子どもにピッタリなメンターが見つかるサービス」（▲31.3pt）で、子どもの特性に合わせて導いてほしいというニーズが見られます。

Q. ASD のお子様を子育てする上で、具体的にどのような支援が必要だと思いますか。また現在受けることができる支援はありますか。（いくつでも）



「現在受けることができる支援と比較して、
「必要だと思う支援」の回答割合が
20pt以上高い項目

※ASD と診断された子を持つ保護者ベース（N=545）

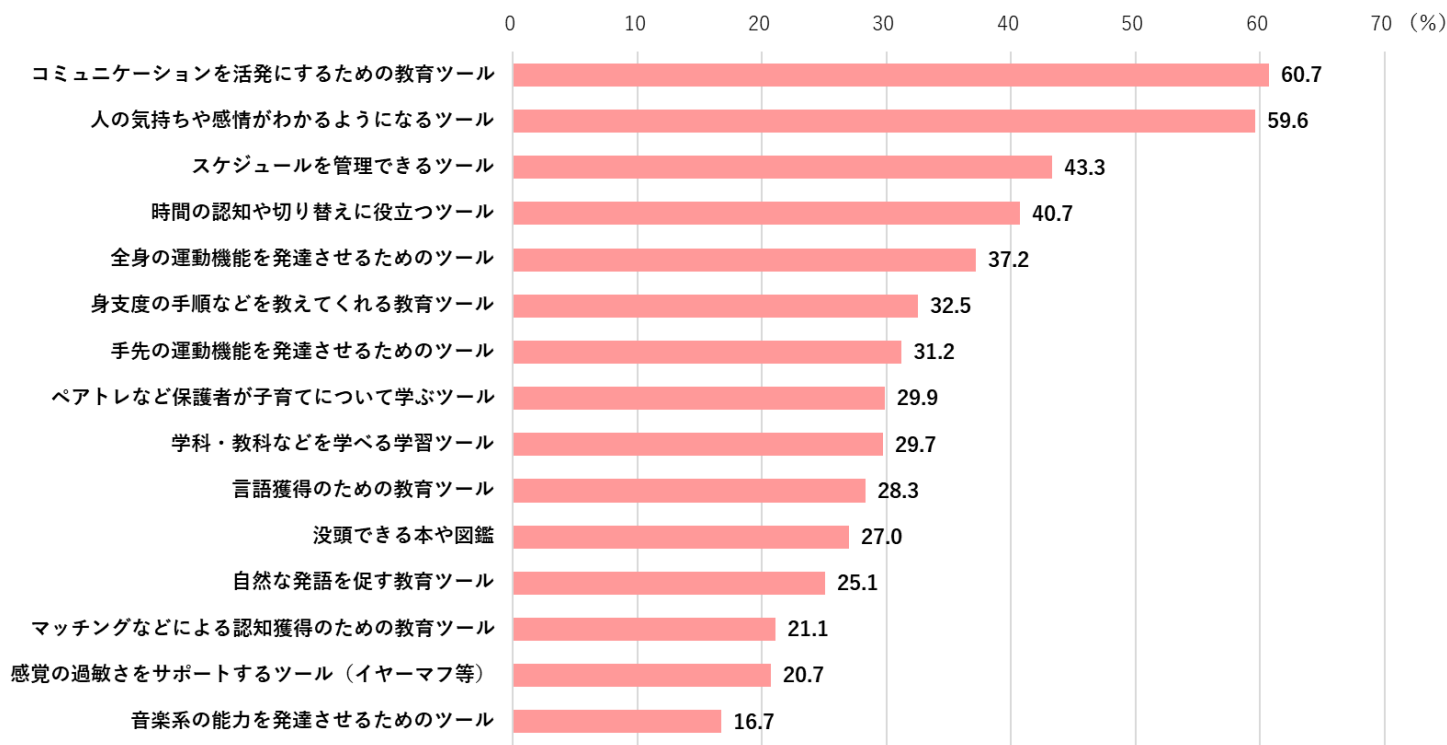
※「必要だと思う支援」回答割合降順にソート

【ASD の子の子育てにおいてあるとよいと思うツール】

■「ASD と診断された子」の保護者が、子育てにおいて「あるとよい」と思うツールは「コミュニケーションを活発にするための教育ツール」(60.7%)、「人の気持ちや感情がわかるようになるツール」(59.6%)が上位に挙がり、周囲とのコミュニケーション力を向上させたいと感じているようです。

■また、「スケジュールを管理できるツール」(43.3%)、「時間の認知や切り替えに役立つツール」(40.7%)と続き、時間感覚を養うツールが求められていることもわかりました。

Q. ASD のお子様を子育てする上で、どのようなツールがあるとよいと思いますか。以下の中からあてはまるものをすべてお知らせください。
(いくつでも)

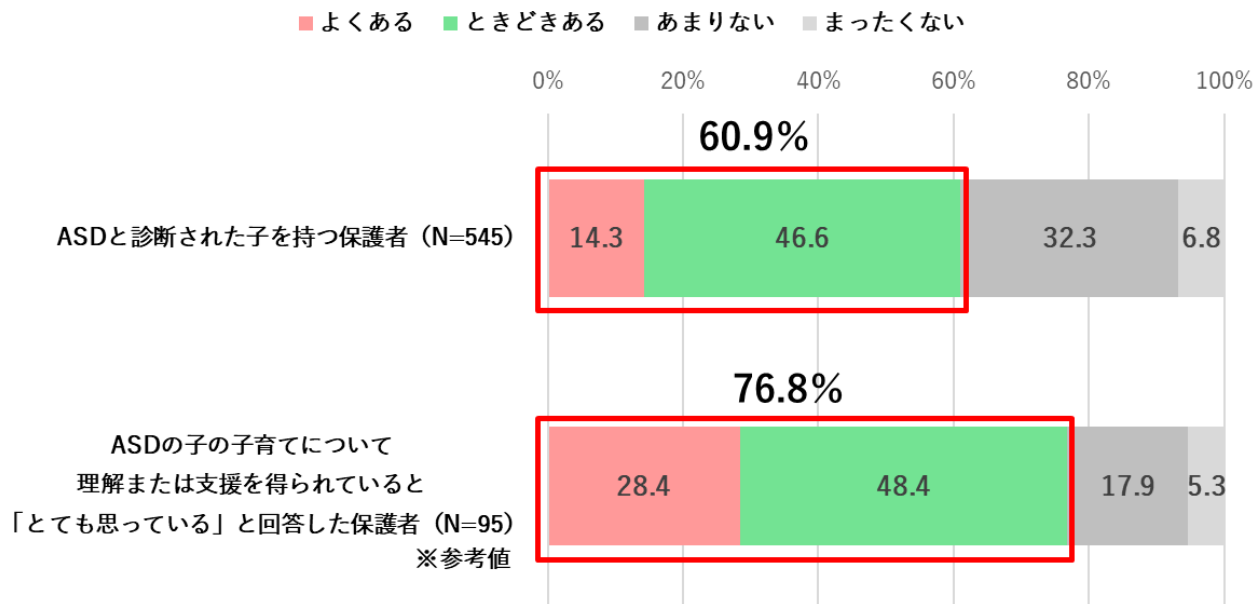


※ASD と診断された子を持つ保護者ベース (N=545)

【ASD の子の特性を強みに思う保護者の割合】

■「ASD と診断された子」の保護者に、子どもの発達特性が強みになると思うことがあるか聞いたところ、「よくある」「ときどきある」と回答した人は 60.9%だったのに対して、「ASD の子の子育てにおいて、周囲の理解や支援が得られているととても思っている」と答えた保護者では 76.8%が「強みになると思う」と回答。「ASD と診断された子」の保護者全体と比較して 15.9pt 高いことがわかりました。

Q. お子様の発達特性に関して、これからの成長過程においてお子様の強みになると思うことがありますか。

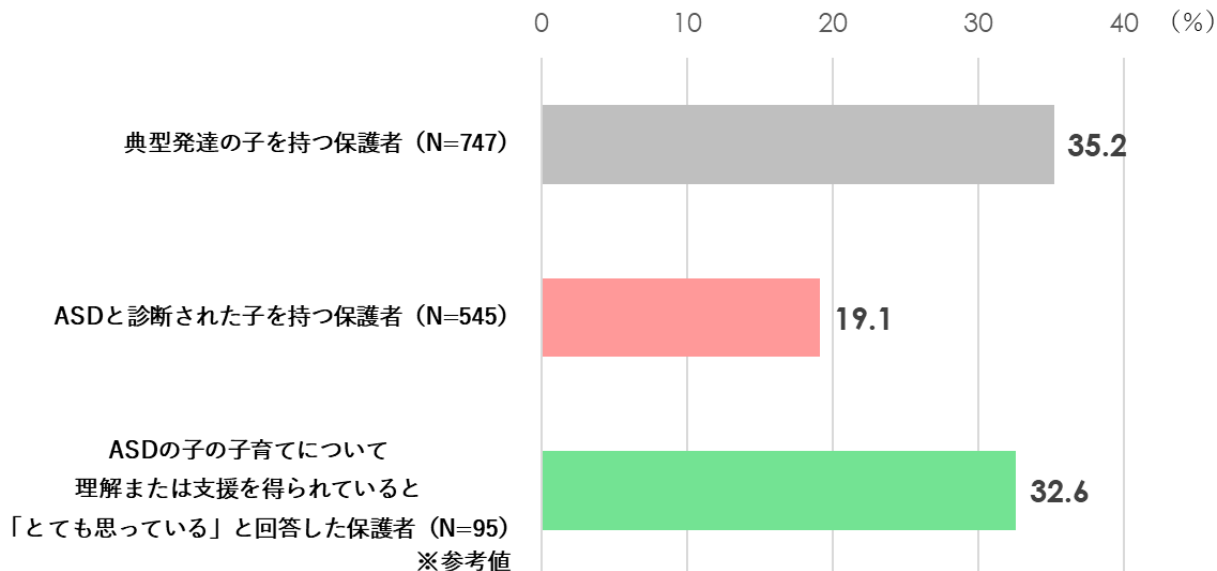


【子どもの将来の可能性が楽しみと思う保護者の割合】

■「子どもの将来の可能性が楽しみ」と回答した保護者の割合を見ると、「ASD と診断された子」の保護者は 19.1%と、「典型発達の子」の保護者の 35.2%と比べて 16.1pt 低いですが、「ASD と診断された子」の保護者のうち「ASD の子の子育てにおいて、周囲の理解や支援が得られているととても思っている」と答えた保護者の回答は 32.6%と、「典型発達の子」の保護者と近いスコアとなりました。

Q. お子様の将来に対して、どのようなことをお考えですか。以下の中からあてはまるものをすべてお知らせください。

※「将来の可能性が楽しみ」を選択した割合



〈調査概要：ASD と子育て実態調査②〉

調査手法：インターネット調査

調査エリア：全国

調査時期：2020 年 1 月

調査対象者：20～60 代男女（N=1,292）

-ASD と診断された 0～22 歳の同居子を持つ保護者（N=545）

-ASD やその他の発達障害の診断や疑いのない（典型発達）0～22 歳の同居子を持つ保護者（N=747）

※本調査は以下の専門家による監修のもと実施しました。

菅佐原 洋（すがさわら・ひろし）氏

公認心理師／臨床心理士／臨床発達心理士

LITALICO ジュニア チーフスーパーバイザー

発達心理学や応用行動分析学を専門とし、発達障害のある子どもへの直接支援、幼・小・中学校教職員への特別支援アドバイザー、教育センター等での研修などに 20 年以上携わっている。また大学教員として、臨床心理士育成などに関わっており、現職においても支援に関わる指導員への研修やスーパーバイザーの育成の統括を担当している。

【教えて！はったつ博士 とは】

ASD（自閉症スペクトラム）の実態や子育てのヒントを研究・発表する WEB サイト。

実態調査のレポート発信や、ASD の子どもの「こだわりエピソード」の紹介、ASD の子どもたちの「好き」に寄り添うコミュニケーションのヒント集などのコンテンツを、専門家や ASD の子どもをもつママ・パパと一緒に研究しながら情報発信をして参ります。

本調査結果の詳細は、「教えて！はったつ博士」のサイトよりご覧いただけます。

<http://h-hakase.jp/>

SHARE



教えて！
はったつ博士

ASD(自閉症スペクトラム)のリアルと
子育てのヒント。

はったつ研究所に入る



【Pechat（ペチャット）】

博報堂のプロダクト・イノベーション・チーム monom（モノム）と、博報堂 D Y グループの博報堂アイ・スタジオが共同で開発した、ボタン型スピーカー。Pechat をお気に入りのぬいぐるみに取り付け、専用のスマホアプリを操作することで、ぬいぐるみがしゃべっているように感じさせるほか、Pechat を通して、子供と内緒話をしたり、一緒に歌をうたったり、お昼寝を促したり、物語をきかせたりと、様々な使い方ができます。

<http://pechat.jp/>

【博報堂こそだて家族研究所】

晩産化・少子化、共働き世帯の増加、夫や祖父母の育児参加など、この10年で大きく変わってきた「子供のいる家族」について、研究・提案を行う博報堂の専門組織。1996年より活動していたB a B Uプロジェクトを発展改組し、2012年10月設立。「妊娠期から小学生の子供を持つ家族」に関する専門知識を元に、調査、商品開発支援、広告などコミュニケーション支援、メディア開発、事業開発などを手掛けています。

<http://www.hakuhodo.co.jp/archives/announcement/24207>

【LITALICO 発達ナビ】

株式会社 LITALICO が運営する、発達が気になる子どもの親向けポータルサイト。

ADHD（注意欠陥・多動性障害）や自閉症スペクトラム障害（アスペルガー症候群や高機能自閉症含む）などの広汎性発達障害、学習障害（LD）、知的障害、ダウン症などの障害に関する情報と、子育ての困りごとを解決するために必要な情報を得ることができます。

<https://h-navi.jp/>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社博報堂 広報室 玉・山野 koho.mail@hakuhodo.co.jp